

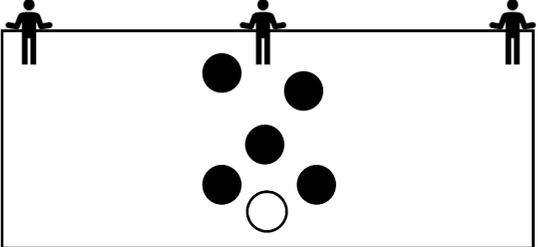
保健体育科学習指導案

公開学級 第1学年 1・2組男子 (34人)

場所 体育館2階 フロア

授業者 高島 大輔

- 1 単元名 球技 「バスケットボール」
- 2 本時のねらい ○ (運動) 味方ボールになった際に、サイドアウトを活用して広くスペースを使って攻める攻撃ができる。(知識・技能)
● (集団) これまで習得したスキルを参考にし、互いに意見を出したり改善したりし合い、進んで応えようと努力する仲間になろう。
- 3 本時の展開 (6/10)

過程	活動内容	研究に関わる手立て
導入	1 準備運動・帯練習 (体操, 基底技能練習) 2 全体計画会 ○本時の課題 (本時打開したい状況) を確認する。	ST (ストラテジータイム) の設定 (生徒の主体性を引き出す手立て) (生徒の相互作用を生み出す活動) 前半および後半練習に、各チームが戦術的な攻防を自分たちで考え、実際にプレーしてみながらよりよい解決方法を決め出す時間を設定する。 また、提供する状況を打開していくために必要となるスキルカードを準備する。戦術の意図をパターンに応じて共有しやすくなることを期待する。 さらに、より明確に状況把握ができるよう、タブレットや電子黒板を活用した3D作戦板を準備し、提供する。一般的に取り扱ってきたホワイトボードや磁石等を用いた学習では、実際のコート内での動きへと直結させづらい課題がある。3D作戦版の活用により、生徒の視線や視野をより高く再現できることを期待する。
課題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○どのように攻めるか考えよう。 ●これまで習得したスキルを参考にし、互いに意見を出したり改善したりし合い、進んで応えようと努力する仲間になろう。 </div>	
展開	<ST時の生徒の様子>  <ul style="list-style-type: none"> ・サイドには空いているスペースが広くあるから、ここを使ってはどうだろう。 ・周りにディフェンスが多いから、慌てずにバウンズパスで出すといいね。 ・サイドにボールを出した後は、色々な攻め方ができそうだね。 ・例えば、サイドにボールを出した後で、相手がいなければそのままドリブルで攻められるな。もし相手が守ってきたら、中央に入れることもできるね。 	
終末	3 前半練習 (ST-1) ○映像や写真から、本時打開していく状況を確認し、イメージを湧かせる。 ○既習内容 (スキルカード) を活用し、互いに意見を出し合って攻撃の手順を練る。 ○考えがまとまったらフロアで実際にプレーし、よりよい攻撃の方法を探る。 4 中間研究会 ○本時の課題に対する答え (戦術) をグループごとに発表し合い、互いに考えを深める。 ○スキルの活用方法や、多様な戦術があることに気付くことができる。 5 後半練習 (ST-2) ○中間研究会での他グループの戦術を参考に、再度自分のグループの戦術を見直したり、練習したりする。アレンジを加え、試合等で活用できるようにする。 6 ゲーム 7 まとめ ○本時の習得内容の自己評価と、その要因を互いに交流し合い、次時への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・画面上での動きの確認に終始することなく、実際にプレーをすることで様々な意見が互いに交流できるよう促す。 ・後半練習では、よりよい戦術づくりに取り組むことで、思考の深まりが進むように促す。

4 単元指導構想図

2年

通常コートを使用した**速攻**で攻めるゲーム

- ・コート幅広く使うこと
- ・マイボールになった際は、サイドアウトをしていくこと
- ・ボールの出し方の工夫・動きの工夫
- ・相手がディフェンスに戻る前に攻めきる。
- ・ファーストブレイクを活用したサイドコートを使用した攻め方。

3年

通常コートを使用した**遅攻**で攻めるゲーム

- ・速攻によるスピード感のあるゲーム
- ・ファーストブレイクの意識
- ・攻め方を工夫し、5人で協力して点を取り合うゲーム
- ・リバウンド後、再度シュートへ向かうボール回し

◎実際にゴールを決める喜びの獲得

発展

- ◎バスケットボールという競技の特性に触れる体験
- ◎仲間と協力して勝ちに向かっていく集団づくり・意識の向上

単元を貫く課題
簡易化されたゲームで、ドリブル・パスなどの基本動作の活用によって、コートを広く使用した攻めをすることができる。

※ 本単元の試合ルール	帯活動 (5min)	本時の課題 (5min)	前半練習 (10min)	中間研究会 (5min)	後半練習 (取り入れ) (14min)	ゲーム・終末 (14min)
<p>ポートボールルール ゴール3か所 各ゴール1点 (最終中央3点)</p>	アップ・基礎技能 (ボール操作・ドリブル・キャッチ) 練習	本時の課題 ”〜のとき、どのように攻めるとよ いだろうか”	習得 (第1~3時) してきた様々なスキルカードを駆使し、実際にプレーをしながら G 毎に答えを導き出す 自力解決	各 G から課題に対する提案 + 発展問題	他 G の提案を受け、再度自 G の攻め方を検討・アレンジ 追求・深め	1G : 8 or 9名 フィールド内5名+ゴール3名 本時のまとめ 本時の習得内容とその要因を互いに交流する
<p>第4時 活用1 どのゴールを狙いますか ①</p> <p>第5時 活用2 どのゴールを狙いますか ②</p> <p>第6時 活用3 本時 さて、どうしますか</p>	<p>生み出したい考え</p> <p>①空いている (相手がいない) エリアを使う</p> <p>②ボールを出させる動き出し (受け手の意識)</p> <p>③ボールを出すことで走らせる (出での意識)</p>	<p>生み出したい考え</p> <p>①パス&ゴール</p> <p>②オーバーラップ</p> <p>※ ボールを出して終わらない次につながる動き出しの意識</p> <p>発展 数的優位を意図した攻撃への参加</p>	<p>生み出したい考え</p> <p>①自陣で相手に囲まれても慌てずにサイドアウトをする</p> <p>※ ファーストブレイクにつながっていく考え方を導き出す</p> <p>※ 自陣に限らず、コートサイドを活用する。</p>	<p>活用1-3設定の理由</p> <p>活用1 空いている仲間に気付く対ボール・対ゴールの意識を広げていくために、フリーとなっている仲間に気付く (対味方・ヒト)</p> <p>活用2 空いているスペースを使う対ヒトに加え、対スペースを意識付け、様々なスキルを活用する</p> <p>活用3 マイボールでのサイドアウトで年生「速攻」へつながっていく空きスペース (サイド) への気づきと活用</p>	<p>第7時 活用4 リーグ戦に向けて 前時までの試合を振り返り、自チームの武器や課題点について確認・練習 ☆試合分析☆ 映像を見ながら、練習したい状況を設定して練習</p> <p>第8・9時 活用6・7 実践1・2 リーグ戦</p> <p>第10時 振り返り *生徒の出口の様相*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペースを意識した攻撃ができるようになったぞ ・ボール → ヒト → スペース (団子) → (エリアゲーム) ・相手が戻るよりも速く攻めていかないといけない 	

バスケットに対する生徒のイメージ

- ・シュートが決まる喜び
- ・走る・守るの攻守の切替わり
- ・パスを出す
- ※どこに出せばいいの?
- ※どこでらえばいいの?
- ・ドリブルで攻める
- ※どこに向かえばいいの?
- ※どうやって動けばいいの?
- ・ボールの周りに多くの人が固まってしまって動けない。

バスケットを成立させるために必要な基礎技能

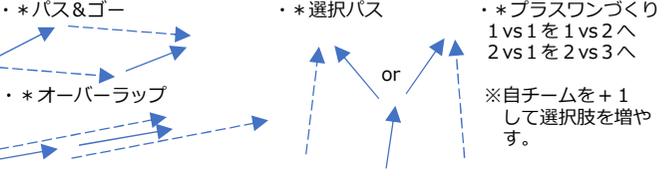
- ☆シュート・・・得点力
- ☆パス・・・攻め方
- ・チームスポーツとして必要。集団力の向上。仲間との関わり。数的優位
- ☆キャッチ・・・ボール操作
- ・ハンドリング、ドリブル能力
- ☆声かけ・・・集団力の向上
- 「ごうち」「走って」「チイス！」
- ☆フロアバランス・・・攻め方
- ・マイボールでゴールに向かえる

第1時 習得1 必要なスキルは何か ①

- ボールを操作する
- ・右手、左手ドリブル
- ・左右交互ドリブル
- ・ボールキャッチ
- ・*直線ドリブル
- ・*直線-ストップ-直進ドリブル
- ・*直線-ストップ-横ドリブル
- ※*マークはスキルカードとして学習

第2・3時 習得2・3 必要なスキルは何か ②

- ボールを出す・受ける
- ・*チェストパス
- ・*三角チェストパス
- ・*パス&ゴー
- ・*オーバーラップ
- ・*選択パス



習得

- ・*プラスワンづくり
1 vs 1 を 1 vs 2 へ
2 vs 1 を 2 vs 3 へ
- ※自チームを+1して選択肢を増やす。

5 研究に関わって

<研究内容2>

本時の手立て・活動 と 期待する効果

① 「ストラテジータイム(ST)」の設定

(生徒の主体性を生み出す手立て/生徒の相互作用を生み出す活動)

本校保健体育科では、単位時間内に「ストラテジータイム(ST)」を設定している。

「ST」とは、各種目において戦術的な攻防を必要とする場面を意図的に設定し、「この場面では誰がどう動き、どう攻めるとよいか」について、各チームが自分たちで考え、実際にプレーしてみながら、よりよい解決方法を導き出す時間と捉えている。本単元では、本時を含む単元中盤の3時間にこれを設定する。

教師が一方向的に戦術を伝えるのではなく、生徒自らが主体的に学んだ知識や技能を活用・応用することで、深い学びの姿を実現につながることを期待する。また「ST」を他の種目でも活用することで、種目を横断した思考力・判断力・表現力等の向上を期待する。

② 「ST」を成立させるための単元構成の

工夫と環境設定

(生徒の主体性を引き出す手立て)

【単元構成の工夫】

ボール操作やスペースの活用方法などのスキルを習得する時間を、単元序盤とその後の帯活動に位置付け、継続的に練習を行うことで、活用材料となるスキルを確実に身に付ける。

【環境設定】

スキルカードや掲示物によって、生徒が必要に応じていつでも習得した技能を想起し、活用できるような環境を設定する。また、3D作戦版を活用し、生徒の視線や視野の再現性を向上させることで、学習内容の充実を図る。

<研究内容2>

生徒の主体性を
引き出す手立て

生徒の相互作用を
生み出す活動

教師による方途

教師

単元・単位時間

自ら考え、仲間と共に
自力解決を目指す生徒

目指す生徒像

<研究内容1>

深い学びを実現した姿の明確化

<研究内容1>

本時の深い学び	本時の深い学びを実現した姿(具体)
<p>課題となる場面において、得点につながるように、様々な既習のスキル(ボール操作、ボールを持たない時の動き、スペースの使い方など)を活用して自分たちの攻撃方法を考えながら、練習に取り組むことができる。その中で、自分の考えや判断を仲間に関わりやすく伝え、練習やゲームに生かすことができる。</p>	<p>【A】の場合 ・サイドアウト後、相手がボールを奪いにくるはずだ。でも、①前方に空きスペースがあるから、ドリブルで攻めていこう。さらに、②僕がここに動けば、パスがもらえて、違う攻撃ができるぞ。</p> <p>【B】の場合 ・サイドアウト後、相手が囲んできたら、このスペースへ動いていこう。そうすると、中央とサイドのゴールが狙えて、選択肢が広がるぞ。</p> 